1930. 7. 12. 発行

P.M ニュース

NO. 3.

事務所
上落合460
日本プロレタリア音楽家同盟

（一）

嵐に抗して進め！

我がナップは目下、敵階級の未曾有の迫害の中に居る。

戦旗は毎月、発売禁止され、音楽、演劇等の催しは、容赦なく破壊され、禁止されてゐる。（例へば、我同盟の活動について見れば、明大、朝鮮学友会の朝鮮児童救援の音楽会の禁止の如き）

ナップの各同盟員の中、活動的な同志は、たえず、引きぬかれ、奪ひ去られて居る。現在、敵階級の手にある同志たちは以下の如くである。

作家同盟 片岡鉄兵（大阪）・中野重治（坂本署）
小林多喜二（巣鴨署）立野信之（杉並署）
劇場同盟 村山知義（扇橋署）佐野（最近釈放された）
美術家同盟 永田一脩（豊多摩刑務所）
岡本唐貴（最近釈放された）

かくの如き攻撃はそれ自信我がナップの活動の階級的正しさを我語るものであり、我々の仕事が労働者農民大衆の中に基礎を持って来たことの証據である。

我々ははっきり覚悟を持たねばならぬ。

今後、我々の仕事が一層活発になるなら、敵の攻撃は、今日に数倍するだらうことを。我が同盟の仕事について見ても既に、上野に於ける音楽会に見るやうに、敵階級は、一切我々の歌から、大衆を切りはなすことを目的として居るのだ。若しも我々の仕事がもっと強くなるなら、敵の攻撃は單に、合唱、演奏の禁止にはとゞまらないだらう。他の同盟の今日の困難な情勢は決して、對岸の火災ではない。而も、我々の活動の目的は、敵階級の最も怖れる、大衆との堅り握手にあるのだ。

敵階級の攻撃にひるんではならぬ。我々は我々の活発な活動によって、敵の攻撃に少しでも敗けては居ないことを示さねばならぬ。

進め！・敵の攻撃の強さに比例して我々の力は伸びて居ることを自覚せよ！。

（注意）他の同盟の同志へ迫害は我々自身に加へられた迫害である。救援せよ！・同志等の家族を慰問せよ！

救援金を送れ！・救援金は便宜上、同盟書記局に送れ！。

（二）

一方我がナップにかくの如き迫害が加へられて居る時、我同盟の現状はどうであるか。我々の力は強い嵐に堪へ得るだらうか。若し堪へ得ないとすれば、如何なる方法によってそれが救はれるだらうか。

我同盟はさきに、戦旗三千円基金募集のために、最初の音楽会を催した。音楽会は圧倒的な成功を収めた。（この催しによって、我々が戦旗基金に加へ得た額は略百円である。）

我々の成功は以下の二つの理由による。

第一は、我が戦旗に對する、労働者農民の圧倒的信頼と支持とである。

第二は、口を塞がれた、労働者及び農民自身の自分自身の歌を歌ひたいといふ燃えるやうな要求である。それ故に彼等は、彼等自身の音楽を守るといふ強い決意で以って、我々の仕事を擁護したのである。我々は堂を圧する歓呼、禁止に對する猛烈な、自然発生的な抗議を記憶して居るだらう。

二つの理由によって、会場は立錐の余地なく埋められた。だが我々は、この大衆の強烈な要望に応じ得ただらうか。応じ得た。多くの成功はあった。然し、我々は、今後の一層の進出のために、成功の中に又、我々の弱さを批判しなければならぬ。

（イ）

我々の弱さは何であったか。

第一に、歌曲の不足である。我々の歌は検閲の魔手によって、十五の中、十を禁止された。禁止された時我々は、それにかへる歌の準備をもはや一つも持って居なかった。我々は、歌詞なしに歌はなければならなかった。

勿論検閲によって奪ひ去られた歌こそ、我々のすぐれた歌であり、我々は全力をあげて（労働者農民の大衆的抗議によって）それを取り返さねばならぬ。又、あらゆる手段を独創して、それらの歌を持ち込まねばならぬ。然しながら、常に、多くの歌を準備することによって、如何なる非常時にも備へ得るといふことは、我々の活動の必須條件である。

（ロ）

そのことは、直ちに我が作曲班の活動の不振を物語って居る。

作曲班の活動の不振は同時に、次の点にもあらはれて居る。

即ち、我々の歌の多くは、外国の作曲であり、外国の歌詞の翻訳である。而るに、大衆が心から求めて居るものは、日本の労農大衆の曲であり、歌でなければならないのだ。そして又、我々自身の手による、作曲作詞がなければ、本来、日本のプロレタリア音楽の運動はあり得ないのである。

我々は何よりも先づ、そこに緊急の仕事を見なければ

からぬ。

（注意）この点に関しては、今後、作家同盟の詩研究会との協力によって具体的な解決が進められやうとして居る。このことは催の我々による自己批判から生れた成果である。

（ハ）

第三の点は次の如くである。我々の歌と大衆とを切り離すことは、明らかに、敵の方針である。それ故、今後、大規模な音楽会の形態だけでは、我々の歌を大衆に伝へることを充分になし得ないことを知らねばならぬ。

勿論、音楽会の形態から、我々は退却するのではない。我々は益々我々の力によって（大衆と結びついた我々の力によって）音楽会そのものの自由を押し広げて行かねばならぬ。その上で、更に我々は、最も密接に我々と大衆とを結ぶ、形態を独創することが大事である。それは何か。

移動音楽隊である。

既に、我々の第一回の催しの具体的反響は労農大衆の中から起って居る。我々は、進んでその差しのばされた手に、我々の手を結びつけねばならぬ。

我々は、敏速な簡単な持込みの形態を考慮する必要がある。例へば、ハーモニカ隊、合唱隊、小さいバンドの類。

（三）

労農大衆の彼等自身の歌に対する熱望は、激しいものである。

我々は、我々の出動によって歌ふことを教へ、広めなければならぬ。同時に印刷物の形態によって、歌を広汎に宣伝することは必須である。目下我々は、戦旗社から出版すべき、歌曲集の編輯を着々と進めて居る。それは、大衆の熱烈な要求の一端を満すだらう。今後我々は、定期的に新しい歌曲を印刷し、又は戦旗に掲載することによって、この種の仕事を押し進めることが必要である。

（四）

催しから学ぶ第四の点は、尚は我々は技術的に甚だ未熟な点である。だが、それは今後の活動によって、益々、我々の技術をみがくと共に、優秀な技術者を獲得することによって満されるであらう。

我々は我々の弱点から以上のことを学んだ。とも角も、然し、我々は第一回の成功を収めた。それは巨大な一歩である。

勇躍せよ！！　嵐をついて

進め！！

ナップの指導理論雑誌が九月号から発刊される。我々の機関紙だ。我々の開拓して行く仕事を以つて、それを埋めよ！！

プリントズリ楽譜を売る。

（持ち込みに便利）

1. メーデー歌、自由ロシア讃歌。
2. 小さい同志、憎しみのるつぼ、高くかかげよ。
3. コンミュニストのマルセイズ

以上一枚一銭

4. インタナショナル、コンミュニストのマルセイズ

一枚十銭

切手で申し込め！！

事務所確立。

市外上落合四六〇

日本プロレタリア音楽家同盟。

★ **委員会の確立。**

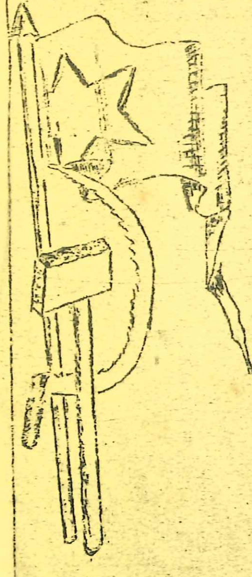
第四回同盟総会は委員会確立について討ぎし以下の如く決定した。

委員長　関。
委員　守田、露木、山本、福田。
書記長　河野。
書記　山本、北斗。

★ **プロキノに出動**

五月三十一日読売講堂に催されたプロキノ最初の公開映写「プロレタリア映画の夕」に同盟合唱隊は賛助出動した。

★ **落合消費組合へ出動。**

七月五日落合消費組合主催の「プロレタリア演芸大会」に同盟合唱隊は出動した。